



おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ

2006年4月発行

ニュースレター

No.1

被害者と支援者、被害者と被害者が家族のような結びつきを。その思いから「ファミリーズ」と名付けました。

被害者とともに、被害者の視点を大切に

設立1年を振り返って 代表 川崎 政宏

平成16年12月に犯罪被害者等基本法ができました。そこには、「被害者の視点」を大切にすることが謳われています。おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ(愛称「ファミリーズ」)は基本法のもとで被害者が再び置き去りにされないように、被害当事者の視点に立ち、ゆっくりでもいい、被害当事者と支援ボランティアと一緒に、「家族のような結びつき」をもって活動することをめざし、平成17年2月に設立されました。

この1年間多くの方たちに支えられ、また被害当事者の方たちのつながり、輪が広がり、平成18年2月NPO法人申請に至りました。

二つ目の民間支援組織が岡山にできたわけです。

支援ボランティア中心の組織である社団法人被害者サポートセンターおかやま(VSCO)との違いにつきよく質問されます。

- ① 被害当事者と支援ボランティアの協働
- ② 自助グループによる長期的支援の視点

がファミリーズの特徴です。

「被害者でなければできないこと」(自助グループ、体験に基づく講演、ピアサポート活動など)

「被害者だけではできないこと」(ボランティア電話相談、傍聴付添など)

がキーワードになっています。

毎月第3土曜日に自助グループの定期的開催、平成18年2月から「犯罪被害者のための連続講座」の開

催、また被害当事者の方たちによるピアサポート活動(仲間支援、相互支援)を行っています。地域社会の中で、被害当事者の方たちが集える場を少しずつ増やしていく必要を感じています。

被害者は支援を受ける受け身の存在ではなく、支援者と対等な関係を強えられる必要もありません。被害者をありのまま理解しようとする支援者とともに、被害者は被害後の生活を自分で再建していく力を持っています。ファミリーズはそうした被害者とともに歩む中で息の長い関わりを大切にしています。

社会には、「時間が被害者を癒す」「いつまで泣いても始まらない」といった誤解や、「被害者のくせに笑っていて不謹慎だ」「あなただけが被害者ではない」といった偏見があり、被害者はいまだに苦しめられています。泣いても笑ってもいい、ありのままにいられる時間とともに過ごせる「場」が少しずつ地域の中で広がっていくことを私たちは願っています。

警察からの情報を入手して早期支援を行うことは大切ですが、地域の中で思いを語ることもできないまま、時間だけが過ぎていく多くの被害者、被害者遺族の方たちの声をていねいに受け止めて、つながりを大切にする長期的な支援を考えていきたいと考えています。

被害当事者の方たちと一緒に考え語り合いつつ、小さいながらも確かな支援の輪が広がることを期待しています。



一人で悩まず、勇気を出してご相談ください

おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ

電話相談 086-245-7831

毎週土曜日午前10時～午後4時(年末年始休み)

ファックス相談 086-226-6161(24時間受付)

<http://www17.ocn.ne.jp/~families/>